

高活協通信(2022年8月号)

発行：一般社団法人 高齢者活躍支援協議会

<http://www.agenomics.org>

◆◆◆高活協ニュース◆◆◆

■お知らせ

- 高活協会員ランチ交流会(上田研二理事長を偲んで)を開催しました(7月25日)。
- 今月の「70歳就業法」関連情報欄に、「これからの高齢者は企業を引退した後も地域で活躍」を掲載しました。
- 高活協通信「今月の一冊」は、「53歳の新人～NHKアナウンサーだった僕の転職」です。
- 高活協ホームページを更新しました。
 - ・「高活協ホームページ」のURLは以下の通りです。

<http://www.agenomics.org>

高活協は会員の皆様に毎月1回「高活協通信」を配信させていただいております。この通信活動を会員の皆様と高活協とのコミュニケーションの機会とさせていただきたく考えております。つきましては、皆様のご意見や提供したい話題などがございましたら、本配信メールへの返信にてお寄せいただければ幸いです。

■2022年7月の主な活動

- 高活協は現在、シンポジウムなど人が多く集まるイベント活動を自粛しております。ただし、少人数の会議やZOOM等を利用したオンラインの会議・イベント等は新型コロナの感染状況を睨みながら適宜実施しております。
- 2022年7月25日、高活協の会員の皆様とのランチ交流会(上田研二理事長を偲んで)を開催しました。あいにく新型コロナ感染が急拡大する中での開催となりましたが、感染防止対策を十分施した上で実施させていただきました。交流会では、ご出席の皆様から上田研二理事長との思い出話などが語られました。また、高活協に対するご意見やご要望なども伺いました。例えば、高活協からの発信については、インパクトのある言葉で発信すること、楽しめる内容の発信も含めること、活躍中の高齢者自身からの発信も必要・・・などのご意見をいただきました。
- 「70歳就業法」関連情報欄では、「これからの高齢者は企業を引退した後も地域で活躍」を掲載しました。高齢者の地域での就労を支援する厚生労働省の施策としては、これまで「生涯現役促進地域連携事業」が多くの自治体で実施されてきましたが、それらを踏まえた新たな施策が始まっています。
- 高活協ホームページの「高活協アーカイブ」ページにおいて、「高活協通信(2022年7月号)」を掲載しました。
- 2022年7月、生涯現役社会の実現に向けた行政や企業などの動向に関する情報収集を行いました。な

お「70 歳就業法」関連情報は、「◆◆◆生涯現役社会の実現に向けてー トピックス◆◆◆」のコーナーに、適宜掲載していきます。

◆◆◆高活協主催/共催イベントの紹介◆◆◆

■これまで高活協が主催した(共催含む)イベントの報告書/記録集

過去に高活協が主催・共催したイベント(シンポジウム、セミナー/フォーラム)の報告書や記録集は、高活協ホームページの「高活協アーカイブ」ボタンをクリックしてご覧になれます。(ホームページは下記 URL)

<http://www.genomics.org/>

◆◆◆高活協会員関連イベント等のご紹介◆◆◆

会員のご希望があればご紹介記事を適宜掲載させていただく予定です。

◆◆◆生涯現役社会の実現に向けてー トピックス◆◆◆

生涯現役社会は、「職業寿命」「社会活動寿命」「健康寿命」「資産寿命」という 4 つの寿命の延伸が相乗効果をもたらす社会、すなわち「それぞれの寿命の伸びが相互に他の寿命も伸ばす」という好循環がもたらされる社会です。

そんな生涯現役社会の実現に向けた最近の動きを紹介していきます。

■70 歳就業法ー 職業寿命の延伸と生産性の向上を両立させられるかが鍵

○昨年 4 月から「70 歳就業法」が施行され、企業等に 70 歳までの就業確保措置の努力義務が課されることになりました。企業等にとっては、「70 歳就業法」の施行を、単に国による職業寿命の延伸政策ととらえるのではなく、全社的な人事・雇用制度を見直し、社員の意欲と生産性を高めるための機会と位置づける必要があります。

○今後このトピックスのコーナーでは、「70 歳就業法」の施行に関連した情報を適宜掲載していきます。企業等の人材活用戦略などの参考にしていただければ幸いです。

厚生労働省は、「生涯現役社会」の実現に向けた、地域のプラットフォームをつくるため、これまで 6 年間にわたって「生涯現役促進地域連携事業」を多くの自治体で実施してきました。それらの状況を踏まえ、2022 年度より新たに「生涯現役地域づくり環境整備事業」を実施することになりましたが、いよいよ 8 月 1 日より当該事業が始まっています。今回はこの事業のポイントについて、高齢・障害・求職者雇用支援機構の月刊誌「エルダー」の記述を引用する形で紹介させていただきます。

これからの高齢者は企業を引退した後も地域で活躍

「生涯現役地域づくり環境整備事業」では、「生涯現役促進地域連携事業」のように、高齢者雇用のための独立した協議会を新たに設置するのではなく、地域で活動する既存の協議会に、高齢者の雇用・就業機会を創出する機能を付加する事業設計となっている。背景には、2021(令和3)年4月に施行された改正高年齢者雇用安定法がある。70歳までの「就業確保措置」が企業の努力義務となるなど、働く意欲のある高齢者がその能力を発揮し活躍できる環境を整備する必要性が高まった。そのためには、企業内での雇用だけでなく、高齢者のニーズに応じ、地域において高齢者が活躍できる多様な就業機会を創出し、多様な働く場を整備していく取組みを促進する必要がある。

そこで、地域ですでに定着している地域づくりの取組みとの連携を強化し、地域のニーズをふまえた高齢者の働く場の創出と持続可能なモデルづくりや、他地域への展開を推進する事業を実施することとなった。事業は、①「多様な就業機会の創出、持続可能なモデルづくり等」と②「事例収集、実施状況の評価、情報交換会の開催等」の二つの委託事業で構成される。

メインの事業となる①は、地域福祉や地方創生などにおいて形成された地域づくりの既存プラットフォーム機能(協議体など)に、就労支援の機能を付加する仕組みの実証事業である。地域の高齢期の就業ニーズをきめ細やかにとらえた多様な就業機会を創出し、地域の関係機関のネットワークにより高齢者の活躍が地域課題の解決につながる好循環を生み出す取組みを展開するとともに、持続可能なモデルづくりを行う。全国から公募により6カ所程度を選定し、事業実施期間は最大3年度間である。

②は、①の取組みをフォローし、取組み内容および効果の分析・評価を行い、多様な地域の実情に応じた効果的な手法や持続可能な取組みを取りまとめるとともに、情報交換会の開催やウェブサイトでの発信強化などを通して、他地域への普及促進を行う。

◆◆◆読み物コーナー◆◆◆

■今月の1冊

人生100年時代を迎え、シニア層の増加を意識した書籍が増えているようです。このコーナーでは、高齢者の就労に関わるテーマや高齢者の社会参加、ライフスタイル、健康問題などを取り上げている書籍を紹介します。

書名:53歳の新人～NHKアナウンサーだった僕の転職～

著者:内多^{うちだ}勝康

出版社:新潮社

(URL <https://www.shinchosha.co.jp/book/354541/>)

定価:1540円(税込)

本書で使われている著者の写真を見ると、「どこかで見たことがある」と感じる人が少なくないと思います。

それもそのはず、著者は NHK の元アナウンサーで、朝の「生活ほっとモーニング」、夜の「首都圏ニュース845」、そして「クローズアップ現代」などを担当してきた方だからです。現在は、東京都世田谷区にある国立成育医療研究センターの「もみじの家」でハウスマネジャーを務めています。内多さんが NHK から転職したのは 53 歳のとき。本書では、「安定志向」と自称している、ご本人も予想だにできなかった「53 歳の転職」をめぐる顛末が語られています。

内多さんは、「超安定企業」の NHK に新卒で就職し、アナウンサーとして活躍してきました。ご本人も語っているとおり、「NHK の顔」と言われたこともあり、恵まれたアナウンサー人生を歩んできたといいます。ところが、年齢を重ねるとともに、気づけば活躍の場が狭まり、若手に席を譲るような世代に至ります。家族もいるので、このまま定年まで粛々と勤めようと覚悟するものの、「仕事」と「やりがい」のはざまに悩みばかりが募ることに。そんなときに取材などを通じて関心があった福祉分野での求人を知り、思い切って転職に踏み出しました。新天地で苦労しつつも、現在では、思い切って転職して良かったと実感しているといいます。

その一方で、NHK にしてみれば、知識と経験を兼ね備えた内多さんの転職は、大きな痛手だったことが予想されます。なぜ、まだまだ活躍が期待される人材を失ってしまったのか。中高年世代の方々に加えて、企業の人事労務担当者が一読されても、得るところが大きい好著だと感じました。

(個人賛助会員:坂巻 大)

■高齢者雇用の総合誌『エルダー』2022 年 8 月号(2022 年 8 月 1 日発行)のご紹介

発行:独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

<http://www.jeed.go.jp/elderly/data/elder/index.html>

<特集>SDGs と高齢者活用

生涯現役時代のキーワードの一つとして「SDGs(エスディーゼズ)」が注目を集めています。「Sustainable Development Goals」の略で、「持続可能な開発目標」を意味する言葉です。SDGs の取組みとして、メディアなどでは地球環境に配慮した取組みがよく紹介されていますが、私たち一人ひとりがやりがいを持って働き続けることができる環境づくりも、SDGs で求められている取組みの一つです。そこで今号の特集では「SDGs と高齢者活用」と題し、人事・高齢者雇用の視点から SDGs を解説します。

特別インタビュー

企業の社会的存在意義が問われる SDGs 次世代へシニアのスキルや経験の継承を

SDGs パートナーズ有限会社 代表取締役 CEO 田瀬和夫

解説 高齢者がになう SDGs～生涯現役と生涯貢献の実現へ～

ニッセイ基礎研究所 生活研究部

上席研究員 ジェロントロジー推進室兼任 前田展弘

事例① アセットインベントリー株式会社(千葉県柏市)

事例② 株式会社松尾青果(長崎県南島原市)

SDGs に関する JEED の取組み～だれもが安心して働ける社会の実現に向けて～

<連載>

○リーダーズトーク(No.87)

人生の変化を自ら起こすライフシフト 会社に依存せず自分で道を選ぶ生き方を

ライフシフト・ジャパン株式会社代表取締役CEO 大野誠一さんに聞く

○江戸から東京へ 作家 童門冬二(第 117 回)

龍馬の夢 坂本龍馬

○高齢者の職場探訪 北から、南から(第 122 回)

兵庫県 株式会社イズズバーカリー

○知っておきたい労働法 Q&A(第 51 回)

定年退職後の契約更新と合理的期待、退職勧奨とパワーハラスメント

○病気とともに働く(第 5 回)

サッポロビール株式会社

○いまさら聞けない人事用語辞典(第 27 回)

「社外取締役」

株式会社グローセンパートナー 執行役員・ディレクター 吉岡利之

○集中連載 マンガで学ぶ高齢者雇用 教えてエルダ先生!

(第 2 回) 高齢社員のモチベーションが低くて困っています

○労務資料 令和 3 年 6 月 1 日現在の高年齢者の雇用状況等

厚生労働省 職業安定局 高齢者雇用対策課

○日本史に見る長寿食(vol.346)食文化史研究家 永山久夫

「麦とろ」でどンドン元気

○「生涯現役促進地域連携事業」より地域発の取組みから学ぶシニア就業

○イキイキ働くための脳力アップトレーニング!(第 62 回)



配信先メールアドレスの変更をご希望の方、また配信が不要な方は高齢者活躍支援協議会・事務局までご連絡ください。

本通信に対するご意見やご感想をお聞かせください。

また、本通信に掲載してほしい情報等がありましたら、ぜひご連絡ください。

一般社団法人高齢者活躍支援協議会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 17-2 兜町第 6 葉山ビル 4 階

TEL: 03-6555-3926

HP: <http://www.agenomics.org>